



次 第

◇ 開 会

物故者紹介 黙禱

◇ 主催者代表挨拶

会長 服部 光 朗

◇ 来賓祝辞

連合 会長 古 賀 伸 明

民社協会会長 衆議院議員 高 木 義 明

政研フォーラム 理事長 長 藤 悦 史

◇ 乾 杯

◇ 閉 会

友 愛 会

創立102周年



友愛会創立者・鈴木 文 治

2014年8月1日

友愛会館9階大会議室

友愛会創立を記念する会

後援 日本労働組合総連合会(連合)

◇「友愛会創立を記念する会」とは

日本労働運動の出発点。そして民主的労働運動の源流ともいえるべき友愛会創立の意義を顕彰し、会員相互の親睦と労働運動の発展に資するための活動を行っているのが、「友愛会創立を記念する会」である。

同会は民主的労働運動を推進する各労働組合及び同会の構成員に賛同する多くの労働運動関係者によって組織され、毎年、友愛会が創立された8月1日を原則に記念行事を行っている。

事務局

〒165-0014 東京都港区芝2-20-12

(一般財団法人)日本労働会館内

友愛会創立を記念する会

TEL.03-3453-5386

友 愛 会 -その歴史と活動-

友愛会は1912(大正元年)8月1日、東京芝のユニテリアン教会惟一館(現友愛会館)で、青年クリスチャン鈴木文治により創立された。



ユニテリアン教会惟一館(左写真)は、福澤諭吉や明治政府の金子堅太郎らの招聘により1889(明治22)年に来日したクレイ・マッコーレイ牧師が、1894(明治27)年に建設した。惟一館には標語「至誠・正義・廉穆」が掲げられ、自由基督教の運動がスタートしている。

惟一館から日本の社会思想、社会運動は出でたとされ、福澤諭吉、片山潜、安部磯雄、吉野作造らが密接な関係を有し、自由主義、社会民主主義、無政府主義、共産主義等々の思想も、この建物を中心に転回した(1931年『惟一館の歴史』)。

1898(明治31)年には安部磯雄らにより社会主義研究会(後の社会民主党)が、1912(大正元年)年には鈴木文治により友愛会が創立されたことにより、ユニテリアン教会・惟一館は、日本の社会主義運動、労働運動の発祥の地とされている。

友愛会は、労働組合非合法の時代に多くの労働者の支持を得て組織を拡大し、1921(大正10)年に総同盟と改称した。総同盟は政府・資本家の激しい攻撃の中、神戸の川崎・三菱造船所争議(写真)や千葉の野田醤油争議など歴史に残る幾つもの労働争議を闘った。また、総同盟は1925(大正14)年には共産系組織(評議会)を除名するなど、何回かの組織分裂の痛手を受けた。総同盟の労働組合主義労働運動と評議会の共産主義労働運動の対立・統合の構図は、今日に引き継がれている。

左派系組合を除名し、現実主義を確立した総同盟は、労働(団体)協約締結運動を推し進める一方、各種共済・福祉事業に取り組み、また1926(大正15)年には社会民衆党(戦後の日本社会党、民社党)を支え、労働基本権獲得と国民生活向上をめざす合法的な政治活動に取り組んだ。こうして友愛会・総同盟は、戦前期日本労働運動の本流となった。しかし、次第に高まる戦時総動員体制により1940(昭和15)年、遂に解散に追い込まれた。

戦後、友愛会・総同盟は1946(昭和21)年に総同盟として復活。その流れは何回かの合流・分流を繰り返した後、1954(昭和29)年の全労会議、1964(昭和39)年以降は同盟(左写真)を本流とし、幾つもの労働団体の中に伏流水として流れ続けた。

同盟は自由にして民主的労働運動を謳い、労働組合主義に基づく労働運動を展開したが、1987(昭和62)年、労働運動の一層の発展をめざして連合(民間)結成に参加し、組織を解散した。

こうして1912年の友愛会を源流とする日本の労働運動は、戦前・戦後を幾つかに分流しつつ発展し、総評・同盟・中立労連・新産別の労働4団体を経て、1989年に連合として再合流したのである。

友 愛 会 綱 領

大正元年八月一日

- 一、我等は互に親睦し、一致協力して、相愛扶助の目的を貫徹せんことを期す
- 一、我等は公共の理想に従ひ、識見の開発、徳性の涵養、技術の進歩を困らんことを期す
- 一、我等は協同の力に依り、着実なる方法を以て、我等の地位の改善を困らんことを期す

友愛会・総同盟・同盟の略年譜

- 1912(大正元年) 8月1日、鈴木文治らユニテリアン教会惟一館(設計：ジョサイア・コンドル)で友愛会を創立
- 1919(大正8年) 友愛会、大日本労働総同盟友愛会と改称
- 1921(大正10年) 友愛会、総同盟と改称。この年、神戸で川崎・三菱大争議起こる
- 1925(大正14年) 総同盟、共産系組合を除名。評議会結成。総同盟第一次分裂
- 1926(大正15年) 総同盟、社会民衆党(安部磯雄、片山潜ら)支援。総同盟一部メンバーが日本労働党結成。総同盟、日労系系組織を除名。総同盟第二次分裂
- 1927(昭和2年) 同谷の山一林組争議、野田の野田醤油争議起こる
- 1929(昭和4年) 総同盟第三次分裂。全国同盟結成
- 1930(昭和5年) 総同盟、惟一館を買収。安部磯雄・賀川豊彦・新渡戸稲造・吉野作造ら日本労働会館建設後援会を組織し、総同盟を支援
- 1931(昭和6年) 惟一館を大改修して日本労働会館(総同盟本部会館)とする
- 1932(昭和7年) 松岡駒吉、総同盟会長に就任
- 1936(昭和11年) アパートメントハウス青雲荘・友愛病院を建設(設計：山口文象)
- 1940(昭和15年) 高まる戦時体制の中、労組・政党に解散圧力。総同盟、解散を決定
- 1946(昭和21年) 日本労働組合総同盟(総同盟)結成。産別会議結成
- 1947(昭和22年) 日本社会党を中心とする片山潜連立内閣発足。総同盟内閣と呼ばれる
- 1949(昭和24年) 総同盟会館・全編同盟会館建設(設計：山口文象)
- 1950(昭和25年) 総評(日本労働組合総評議会)結成。総同盟再建大会
- 1952(昭和27年) 全編同盟・海員組合・全映演・日放労が総評批判の4単産産声
- 1954(昭和29年) 総同盟と全編同盟・海員組合などが全労会議(全日本労働組合会議)結成。近江桐糸争議、日鋼室蘭争議が起こる
- 1960(昭和35年) 民社党、民主社会主義研究会(現政策研究フォーラム)結成。全労会議・民社党・民社研の三位一体体制確立。安保争議・三池争議起こる
- 1964(昭和39年) 全労会議を解消し同盟(全日本労働総同盟)結成。「人間尊重、友愛と信託」、「4つの民主主義(組合一、産業一、政治一、国際一)」
- 1968(昭和43年) 同盟、政策3点セット(産業政策・長期資金計画・福祉ビジョン)掲げる
- 1987(昭和62年) 全日本民間労働組合連合会(民間連合)結成。同盟・中立労連解散。友愛会議(後の友愛会、友愛連合会。同盟の継承団体)発足
- 1989(平成元年) 日本労働組合総連合会(官民統一連合)結成
- 2012(平成24年) 友愛会創立100周年。新友愛会館建設。友愛労働歴史館スタート
- 2014(平成26年) 連合結成25年、同盟結成50年、民社党解散20年